

折楊柳（楊巨源）
せつようりゆう 　ようきよげん

水辺の楊柳　緑烟の糸
すいへん 　ようりゆう 　りよくえん 　いと

馬を立て君を煩わして一枝を折る
うま 　たて 　きみ 　わずら 　いっし 　お

唯春風の最も相惜しむ有つて
ただ 　しゅんぷう 　もつと 　あい 　お 　ふ 　あ

慇懃更に手中に向つて吹く
いんぎん 　さら 　しゅちゆう 　むか 　ふ

水邊楊柳緑烟絲　立馬煩君折一枝
唯春風最相惜　慇懃更向手中吹

解説　折楊柳とは樂府の題で、中国では別離の際、楊柳の枝を折つてたむけにする風習がある。

語釈　※楊柳Ⅱしだれやなぎ。※緑烟糸Ⅱここは柳の細い枝に芽が萌え出て煙の糸のように見える状態。

※慇懃Ⅱねんごろに。ていねいに。

通釈　岸辺の柳は、今若芽が萌え出て緑のもやに包まれて
いるようである。馬をとめて、君に柳の一枝を折つてもら
う。すると、この柳の枝を春風が惜しむかのように手の
中　にまでねんごろに吹いてくることである。